

私にあるものをあげよう

使徒の働き 3章 1-10節

はじめに

毎月第一主日の礼拝では、その月のテーマに従って説教することになっています。五月のテーマは「伝道」です。

「伝道」とは、「道」を「伝える」と書きますが、イエス様は、「**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません**」(ヨハネ 14:6)と言われました。「伝道」とは、「道」であり、「真理」であり、「いのち」であるイエス様を人々に「伝える」ことです。そして、イエス様こそ、私たちが父なる神様との交わりを回復する唯一の「道」であることを人々に「伝える」ことです。

しかし皆さんは、今は新型コロナウイルスの影響で、なかなか人と会うこともできないので、「伝道」どころではないと思われるかもしれません。しかし意外にも、私たちの教会の看板の前に「ご自由にお取りください」と置いてあるメッセージ入りのトラクトは、以前よりも今のほうが取って行かれる方が多いです。教会の前を散歩される方が増えたというもあるでしょう。しかしこの時間に余裕のある時期に、あるいは様々な不安や困難の中にある時期に、聖書のメッセージを読んでみようという方も多いのではないかと思います。

そこで今日は改めて「伝道」について、聖書から考えてみたいと思います。

1. 生まれつき足の不自由な人

今日の聖書箇所は、イエス様の弟子であるペテロとヨハネが、「生まれつき足の不自由な人」を癒すという出来事が書かれています。

この時すでにイエス様は、十字架で死なれ、三日目に復活し、天に昇って行かれていました。そして父なる神様とイエス様によって遣わされた「聖霊」が、弟子たちの上に降り、弟子たちは大胆にイエス様の復活を証し、三千人もの人がイエス様を信じて洗礼を受け、教会が生まれていたのです。

ある日、ペテロとヨハネは祈るために神殿に行きました。神殿では、午後三時にいけにえがささげられ、敬虔なユダヤ人たちはこの時間に祈るために神殿にやって来るのです。

すると神殿にある「美しの門」と呼ばれる所に、「生まれつき足の不自由な人」が運ばれて来たのです。この人は毎日、神殿に祈りに来る人々から施しを求めるために、ここに置かれていました。敬虔なユダヤ人たちは、「施し」のような良い行いによって、神様からの好意を得ようという考えがありました。ですから、敬虔なユダヤ人たちが多く通るこの午後三時の「美しの門」で施しを求めていけば、生活費を得ることができたのです。

この「生まれつき足の不自由な人」は、4：22を見ると、「**四十歳を過ぎていた**」とあります。彼は四十年間、一度も自分の足で立つことも歩くこともできずに、毎日の施しで得た収入で何とか生活する、そういう人生を歩んでいたのです。

2. 私にあるものをあげよう

そんな彼が、ペテロとヨハネに出会って、人生が変わるのです。厳密に言えば、彼は、ペテロとヨハネを通して、イエス様に出会って、人生が変わるのです。

彼は、「美しの門」を通るペテロとヨハネを見て、彼らにも施しを求めます。するとペテロは、彼に向かって「**金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい**」と言います。そして彼の右手を取って立たせると、彼の足とくるぶしがたちまち強くなって、躍り上がって立ち、歩き出したのです。さらに彼は、歩いたり飛び跳ねたりしながら、神様を賛美して、ペテロとヨハネと共に神殿の中に入って行ったのです。

彼はペテロとヨハネと出会って、四十年間、一度も自分の足で立つことも歩くこともできなかったのに、歩いたり、飛び跳ねたり、踊ったりできるようになったのです。

それだけではありません。彼はこれまで、神殿の前の「美しの門」で施しを求めただけでした。それが、神様を賛美し、祈るために神殿の中に入るようになったのです。

彼の変化は、人に運ばれて人に依存して生きる人生から、自分の足で立ち自立する人生に変えられたのです。そして人の施しを求めて生きる人生から、神様を求めて生きる人生に変えられたのです。

何が彼の人生を変えたのでしょうか。3：12でペテロは、彼を歩かせたのは、自分たちの力や敬虔さによるのではない、とはっきり言います。では何が彼の人生を変えたのでしょうか。それは、ペテロが「ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」と言ったように、「イエス様の名前」です。もう少し平たく言えば、「イエス様の力」です。彼は、イエス様の力によって癒され、人生を変えられたのです。

この出来事は、4：22で「**しるし**」と呼ばれています。この出来事は、何かを示す「しるし」であったのです。それは、イエス様が今も生きている「しるし」です。イエス様は、十字架で死なれる前に、多くの病人を癒やされました。そのイエス様が、聖霊を通して今も生きていて、教会の中に生きて働いておられることを示す「しるし」が、この出来事なのです。

イエス様は確かに十字架で死なれ、三日目に復活し、天に昇って行かれていました。しかし今は、父なる神様とイエス様によって遣わされた「聖霊」を通して、教会の中に、そして私たち一人一人のうちに生きて働いてくださっているのです。そのことを示す「しるし」が、この出来事なのです。

彼の人生を変えたのは、今も生きているイエス様の力です。決してペテロやヨハネの力や敬虔さによるものではありません。しかしペテロは、3：16でこのようにも言っています。**「このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしま**

した。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたので
す」。

ペテロはここで、「生まれつき足の不自由な人」の信仰についても触れています。彼の信仰が、つまり今も生きているイエス様の力を信じる信仰が、彼を自分の足で立たせ、彼を強くしたのだと言います。しかもその信仰は、イエス様によって与えられたものだとも言います。イエス様の力は、イエス様の力を信じる信仰と共に働かれる、イエス様によって与えられる信仰を通して経験することができるのです。

彼は、イエス様を信じる信仰のゆえに、癒やされたと同時に、神様との交わりを回復したのです。だからこそ彼は、癒やされた後に、神様を賛美し、祈るために神殿の中に入っていたのです。

3. 私たちにあるもの

さて最後に、この出来事を通して「伝道」について教えられることを、いくつか考えたいと思います。

一つは、私たちが「伝道」する時に信じていなければならないことは、イエス様は今も生きておられるということです。イエス様は確かに十字架で死なれ、三日目に復活し、天に昇って行かれていました。しかし今も、父なる神様とイエス様によって遣わされた「聖霊」を通して、教会の中に、また私たち一人一人のうちに生きて働いてくださっているのです。

私たちは、死んだイエス様を宣べ伝えるのではなく、今も生きておられるイエス様を宣べ伝えるのです。イエス様は確かに、十字架の死において、私たちに愛を示してくださいました。しかしイエス様は過去の死んだ人で、今の私たちの人生には何の力もない方であるなら、また私たちは、イエス様の教えや模範に倣って生きるだけであるなら、私たちの伝道は空しいものです。私たちは、死からよみがえり、今も聖霊を通して教会の中に、また私たち一人一人のうちに生きておられ、私たちを救い、導き、私たちの人生を変えてくださるイエス様を宣べ伝えなければならないのです。

私たちは、イエス様が聖霊を通して、今も生きておられることを信じているでしょうか。確かに使徒たちの時代に、イエス様は聖霊を通して多くの癒しの奇跡をなさいました。それは、イエス様が確かに死からよみがえり、聖霊を通して今も生きていることを人々に示す必要があったからです。しかし、新約聖書が完成した今は、私たちは奇跡を通してでなく、新約聖書を通してイエス様が確かに死からよみがえり、聖霊を通して今も生きていることを、信じることができるのです。

イエス様は今、使徒たちの時代のように、多くの癒しの奇跡をなされないかもしれませんが。しかしイエス様は今も、聖霊を通して確かに教会の中に、また私たち一人一人のうちに生きておられ、私たちを救い、導き、私たちの人生を変えてくださるのです。

二つ目に、私たちが「伝道」する時に信じていなければならないことは、私たちはイエス

様を持っているということです。ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」と言いました。ペテロには、お金はありませんでした。力も敬虔さありませんでした。4：13には、ペテロとヨハネについて、「**無学な普通の人**」とされていますから、彼らには学力や学歴もありませんでした。彼らが持っていたのは、イエス様だけでした。イエス様こそ生ける神の子キリストであり、死からよみがえり、聖霊を通して今も生きておられるという信仰だけです。

イエス様を信じる人は誰でも、イエス様を持っています。イエス様は確かに今も、教会の中に、私たち一人一人のうちに生きておられます。

使徒パウロは、イエス様が私たちのうちに生きておられることについて、このように言っています。「**私たちは、この宝を土の中に入れていますが、それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰ることはありません。迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません**」(IIコリント 4:7-9)。イエス様を信じ、イエス様が私たちのうちにおられる時、私たちはどんなことがあっても、窮することも、行き詰ることも、見捨てられることも、滅びることもないのです。今も生きておられるイエス様が、いつでも助け導いてくださるからです。

ペテロは、「生まれつき足の不自由な人」に向かって、「**私たちを見なさい**」と言いました。ペテロのうちに、今も生きておられるイエス様がおられたからです。私たちも、私たちのうちに今も生きておられるイエス様を、人々に見せていかなければなりません。私たちは、イエス様を信じたからといって、苦しみや悲しみを経験しなくなるわけでもありません。しかし私たちは、苦しみや悲しみの中でも、今も生きておられるイエス様に守られ、支えられ、導かれて、窮することも、行き詰ることも、見捨てられることも、滅びることもない、そういう姿を人々に見せていかなければなりません。苦しみや悲しみを経験しない姿ではなく、苦しみや悲しみの中でも、今も生きておられるイエス様に守られ、支えられ、導かれている姿を見せていかなければなりません。その意味で私たち一人一人は、私たちのうちにイエス様がおられることを確信して、「**私たちを見なさい**」と言えることが大切なのです。

三つ目に、私たちが「伝道」する時には、イエス様の御名の力を信じていなければなりません。私たちがイエス様の名前を普段用いる時は、祈りの時です。私たちは祈りの最後に、「**イエス様のお名前によってお祈りします**」と祈ります。それは、イエス様がこう言われたからです。「**まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことがありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです**」(ヨハネ 16:23-24)。

私たちがイエス様の名前を使う時、それはおもに祈りの時です。私たちは今日の聖書箇所、イエス様の名前の力を知りました。イエス様の名前は、人々を癒やす力があります。ま

た、イエス様の名前を呼ぶ者は救われ、罪が赦され、永遠の命が与えられ、神様の子どもとされると聖書にあります。イエス様の名前には力があります。私たちは、そのイエス様の名前の力を信じて、熱心に祈ることが大切です。ある時は人々の救いのために、ある時は人々の癒しのために、イエス様の名前によって祈らなければなりません。

神様は、イエス様の名前によって祈る私たちの祈りを聞き、ある時は人々を救い、ある時は人々を癒やしてくださるのです。

おわりに

生ける神の子キリストであり、私たちの罪を償うために十字架で死なれたイエス様は、死からよみがえり、天に昇って行かれましたが、今は聖霊を通して、教会の中に、私たち一人一人のうちに確かに生きて働いておられます。

そのイエス様を、教会は、また私たち一人一人は確かに持っています。私たちは人々に、「私たちを見なさい」と言って、私たちのうちで、私たちをどんな時にも守り、支え、導いてくださるイエス様を証ししていかなければなりません。

そして私たちは、イエス様の御名の力を信じて、人々の救いのために、諦めずに祈り続けていかなければなりません。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたが遣わされた御子イエス様は今、あなたの右の座にいて私たちのためにとりなしていただきますが、同時に、聖霊を通して今も、教会と私たち一人一人のうちに生きて働いておられます。あなたは死んだ方ではなく、今も生きておられる方です。今もなお人々を救い、私たちを守り、支え、導いてくださっています。

どうか私たちが、あなたが確かに今も生きていて、私たちのうちにおられることを確信することができますように。またあなたの御名の力を信じて、祈り続けることができますように。私たちには、お金も力も敬虔さも学歴もありませんが、ただあなたの力を信じる信仰のゆえに、私たちを伝道に用いてください。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。